

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470700204		
法人名	社会福祉法人 宮城福祉会		
事業所名	名取市グループホーム こもれびの家	ユニット名	こもれび
所在地	宮城県名取市手倉田字山212		
自己評価作成日	平成28年12月22日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

懐かしい、雰囲気のある木造平屋建て。理念のほか、ユニット目標を『個性を大事にすること』『笑顔で過ごせる事』をもとに、利用者様それぞれにあった豊かな暮らしを送ることが出来るよう取り組んでいます。利用者様一人ひとりに寄り添い、『その人らしい生活』が出来るよう支援し、関わり合いを大切にしています。季節の移り変わりが感じられる様、家内の装飾に工夫を凝らしています。作品は一緒に制作し、楽しみや満足感が得られるよう企画しています。 また、必要に応じて迅速に医療機関とも連携を図り、安心して生活が出来る環境です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

野球場・古民家や桜の名所等が集まる十三塚公園に隣接し、散歩・花見等、公園の環境を生かせる環境にある。「ゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」の理念を受けたユニット目標を職員の話し合いで作成し、実践に繋げている。目標達成計画に「ユニット毎の行事や活動の充実」を掲げ、生活に変化と楽しみを増やしている。ケアプランは毎月ユニット毎にモニタリングし、家族にも諮って、より良いケアとなるよう検討している。ホームは各種施設が集中している特徴を活かして、地域や行政との密接な関係作り・職員のスキルアップ・安全対策の充実に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームこもれびの家)「ユニット名 こもれび 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、介護者自身が受けたいと思うサービスの提供や環境作りをめざしており、各ユニットで目標を掲げて、実践に繋がるように努力している。目標は玄関の他、スタッフの目に留まるところに張り出し意識づけしている。	ユニット毎に職員が集まって法人理念とユニット目標を振り返り、翌年の目標を決めている。理念は業務日誌に、ユニット目標は玄関等に貼り出している。今年は全ユニットで『笑顔』の言葉を目標に入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事開催時に、地域の方々にも参加して頂くことで、交流を図っている。また、ボランティアの受け入れやボランティア活動の場にごちら側から出向くことで、交流の場が広がるように努めている。	法人の経営する保育園の園児達、紙芝居と手作り玩具や民謡のボランティア訪問がある。隣接の農家からは畑に入り野菜を収穫する了解を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、認知症についての説明や、講習で学んだことを伝え理解を深める努力をしている。また、外出時にご利用者様やスタッフに関わりを持つことで理解を深めて頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場で、ご利用者様の様子などを報告し、施設での生活がどのようなものか理解を深められるように努めている。また、ご家族様から提案された意見をすぐに反映させ、質の向上に繋がるよう取り組んでいる。	市の担当課と地域包括の職員・民生委員・各ユニットの家族代表・法人の第三者委員がメンバーである。地域行事の情報やヒヤリハットも話題に上り、避難方法・避難路改修等の意見を反映させた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、ご利用者様の状況や、スタッフの働きかけの様子などを報告、理解に繋げている。また、行事などにも参加して頂き、施設の取り組みの様子を直接見て頂いている。	市への書類提出は、詳しい報告と情報収集も兼ねて、出向くようにしている。ホームが行う敬老会と忘年会には、市の担当課にも出席を得て、ホームでの生活ぶりを見てもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフの身体拘束についての理解を深められるよう勉強会を開催。ご利用者様が安心、安楽な生活が送れるよう、スタッフ一人ひとりが身体拘束に当たるが確認し、配慮のもとケアを行っている。	事業所は身体拘束をしないケアのため、スピーチロック・ネグレクト防止を軸とした勉強会を行っている。月2回のスタッフ会議や月例のケアプラン検討会でも、入居者の立場に立って身体拘束防止を考えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、知識の習得に努めている。また、ご利用者様の着替え時や入浴時の傷等の有無を確認し、ケアに当たっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度などについて、勉強会の開催や関係文書閲覧を行い、知識を深められるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、契約について十分な説明を行い、内容について理解、納得して頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面談や運営推進会議などで意見や要望を示す機会を設けている。また、そこで出た意見をくみ取り、運営に反映させられるように努めている。	玄関に意見箱を置き、毎月のケアプラン説明や来訪時に家族意見を聞いている。入居者が入院時に体験したりハビリ体操をホームでも試みたら好評なので、ユニットの入居者全員で行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、所長や管理者は運営に関する意見や要望を聞き入れ、より良い環境になるよう対応している。	各ユニット共、月2回のスタッフ会議とケアプラン検討会を毎月行っている。それには管理者とユニット長が入っており、職員の望む処遇改善など話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの心身状態を把握し、労働時間の配慮や環境整備などをしており、就業環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会を定期的に行い、知識や技術の向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学や勉強会、講習等を通して、同業者との交流を行い、情報交換や質の向上に繋がる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	形式的な書面だけの情報にとどまらず、コミュニケーションから得た情報も活用し、ご利用者様が安心して過ごす事ができるよう関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様のニーズをくみ取り、安心して頂く事の出来る支援を提供する事で、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様のモニタリングの実施後、家族様の要望などを把握したうえで、適切なケアを判断する。必要に応じて他機関との連携を交えたサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をともにする仲間、家族という関係のもとケアをさせて頂いている。ご利用者様が楽しめるよう、一人ひとりのニーズを引き出しながら生活が遅れるよう、対応に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細目にご家族様へ連絡を行い、ご利用者様の状態を把握して頂けるよう、対応を行っている。その中で協力して頂きたいことも伝え、ご家族様と共にご利用者様を支えていくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の話題として、ご利用者様の生まれ育った場所などをあげ、思い出に浸るよう対応を行っている。また、面会時には、居室でゆっくり話が出来よう配慮を行っている。	親戚・友人等の来訪時には、居室等で寛いでもらっている。実家があった閑上へのドライブや馴染みの医院や美容院等に行きたいと希望があれば、家族にも誘いかけして出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人ひとりの個性や性格などを把握し、お互いにより良い関係が出来るよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談などあれば、必要に応じて対応するなど、契約終了後も関わる機会には応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。言葉や顔色など表面的なことばかりに目を向け、耳を傾けるだけでなく、内面的な部分も考慮し対応している。また、ご家族様からも話を伺い、情報収集を行っている。	入居前調査や1対1となる時を捉え、それぞれの思いや意向を掴むよう努めている。話し合う中で、編み物に興味を示したので誘い掛けし、編み物で過ごす時間が増えた方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書面やご家族様との情報交換、コミュニケーション等から生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の状態や過ごし方など、所定の用紙に毎日記入しており、現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各スタッフが担当するが、チームで対応するよう意見を出し合い、ケアを見直し、周知することでケアの実施を行っている。また、必要に応じて、ご家族様や医療機関との連携を図り、介護計画へ反映、作成を行っている。	毎月、ユニット毎に担当職員が集まり、ケアプラン検討会を行っている。家族の要望や医療との関わり等で見直す必要が生じた場合は、家族や医療機関等との連携を図りつつ行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	所定用紙への記録を毎日行い、状態の把握を行っている。また、職員間での意見交換、情報の共有など連絡の方法として申し送りノートを活用し、ケアの実施を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様、ご家族様の現状を理解し、希望するサービスが提供できるよう、できる事に対して柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけの病院や地域のスーパーへの買い物など地域資源を活用し、ご利用者様の生活が充実したものになるよう支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される病院を選んで頂き、安心した医療サービスを受けている。ご利用者様の状態については、定期外来、定期往診にて報告しており信頼関係の構築に努めている。	約1/3が往診を行う医療機関をかかりつけ医としている。通院での受診は、家族の付き添いとしている。通院に際してホームは、痛み部位を図示した情報提供表を作るなどして状態を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護ステーションの定期訪問があり、情報を伝え、必要に応じ処置や助言を受けている。また、急変時などは24時間体制にて連絡をとることができ適切なケアを行う事ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に状態を伺いご利用者様が安心して頂けるよう対応できている。また、現状の状態について確認し、早期退院にむけ、医療機関への相談など連携の強化に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設側の方針をご家族様に説明し、どのようなケアを行えるか、ご利用者様、ご家族様、医療関係者の意向を確認しながらご利用者様のよりよい支援を考えている。また、経験のある職員が中心になり、勉強会をすることで理解を深められるよう努めていく予定である。	入居契約を行う際、「重度化対応・終末期ケア対応指針」を示してホーム方針を説明している。ホームで亡くなった方は体調急変によるものであるが、看取り希望が出ることも想定し、看取りを体験した職員を講師に、勉強会を行うように考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講座を受講し、急変時のマニュアルの確認や、訓練を行う事で、実践力をつけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、避難場所・避難器具等の使用方法を確認し、職員に周知している。近隣の方と合同訓練も実施しており、災害に備えている。	年3回の避難訓練を計画し、夜間想定は消防署立ち合いで行っている。名取地区にある同法人の総合防災訓練には、地域の防災関係組織からも参加を得て、避難誘導等を担ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーション、生活歴などから、個人についての把握、の方に合わせた声掛けを行うように努めている。また、接遇の勉強会や講習に参加し、スタッフの意識向上へつながらよう努めている。	名前呼びだが、間違え易い方は姓呼びとしている。居室やトイレに出入りする場合は必ずノックしている。身体拘束とならない言葉使いを身に付けるため、接遇の講習会を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、ご利用者様が自己決定出来るよう傾聴、需要に心掛け、言葉がけに配慮、支援し場面に応じて働きかけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのときの状況や思いを大切にし、ご利用者様のペースに合わせた生活が送れるよう、一人ひとり支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事、外出などTPOにあったお洒落が楽しめるよう対応している。また、定期的に訪問カットを利用し、お洒落や身だしなみを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片づけなど、一人ひとりに合わせて行って頂いている。食事が楽しめるよう季節に応じたメニューや食材、行事食などを取り入れている。	誕生日には本人希望に応えた献立、入居者と職員が一緒におやつを作るなど、食に変化と楽しみを作り出すよう工夫している。ホーム隣の畑作農家からの申し出で、畑に入っている野菜収穫も楽しんで行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の確認、記録を実施。一人一人の嗜好や嚥下、咀嚼状態に適した食品、食形態で提供する事で適量が取れるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。一人ひとりに適した器具、援助にて口腔内の健康が保たれるように努めている。また、訪問歯科の往診のより、必要に応じた医療行為を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時でのトイレ誘導以外にも、訴え時や行動、センサー反応などから、スタッフが尿意に気づき、都度、トイレに誘導する事で汚染を減らし、自立に向けた支援を行っている。	入居後3日間の排泄パターンを観察して排泄パターン表を作って共用し、失敗のない様努めている。夜間帯は個々の状態にそった対応を皆で話し合い、下着・センサーマット・ポータブルトイレ等の使用を決めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を理解し、改善に向けた運動や食べ物を提供している。必要に応じて医療機関への相談を行い、薬が処方されることで、便秘を予防できるよう対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り意向を取り入れ実施を行っている。入浴が楽しい時間になるよう、プライバシーの確保のうえ、コミュニケーションを図りながら行事浴等を実施している。	個々の希望に添う入浴に努めており、拒否された場合は時間や曜日をずらす、誘う職員を替える等の工夫を行っている。季節湯として菖蒲湯・柚子湯を行っている。お湯は一人づつ入れ変えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来るよう環境整備を行っている。また、一人ひとりの体調やリズムに応じた睡眠ができるよう、スタッフが配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用量など理解し、一人一人に適した服薬の支援を行っている。確実に服薬して頂き、誤薬防止に努めている。状態の変化については、書面に記録し、必要に応じて医療機関へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーション、アセスメントからご利用者様に合った役割や楽しみを提供し、生活に張りや楽しみが出来るよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様に沿った外出が出来るよう、ご家族様の協力を得ながら努めている。秋のドライブとして仙台商みの杜水族館へ出かけている。恒例の初詣にも出向く予定である。	十三塚公園にホームが隣接し、公園散歩に出掛ける。ボランティア訪問の時は各棟から集まって交流の場としている。全棟回廊式の建物で、歩行運動や日が射し込む所に移動し寛いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了承のもと、ご利用者様の希望や状況に合わせて、所持、使用をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様より希望があれば対応するよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適した温度、湿度になるよう配慮し、危険要因の排除を行い、安全な生活の環境づくりに努めている。また、季節や行事に合った装飾、写真を飾り、四季を感じ楽しんでいただけよう努めている。	食卓・ソファ・和式の小上がりがあり、様々の寛ぎ方が出来る共有空間である。行事を楽しむスナップ写真や貼り絵等が壁に飾られている。小上りは、編み物・読書・テレビ鑑賞など趣味を楽しむ場所に使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの座席を設置し、個人の居場所を確保している。また、日光浴の場としてカウチを設置し、気の合う人同士で時間を共有できるよう、環境整備を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を置き、安心した生活が送れるよう対応している。また、写真や作品を飾り、居心地の良い空間になるように努めている。	収納家具や電気器具はそれぞれ好みの物を持ち込み、壁や戸棚には家族等の写真や絵画等が飾られ、個性を作り出している。掃除は残存能力相応に職員と分担して行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人感センサーや手すり、ポータブルなど安全に過ごせるように設置している。また、貼り紙や表札などの目印を用い、生活を送りやすいように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470700204		
法人名	社会福祉法人 宮城福祉会		
事業所名	名取市グループホーム こもれびの家	ユニット名	あやめ
所在地	宮城県名取市手倉田字山212		
自己評価作成日	平成28年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様が自己決定・自己選択し、「その人らしく生活ができること」を支援してまいります。温かく穏やかに過ごせる環境づくりと雰囲気作りを大切にしています。趣味活動の充実を図っており、利用者様の作品を壁面に飾らせて頂いています。また、利用者様同士や、その場にスタッフも加わり、いつも笑顔の花が咲いています。御家族様にも気軽にきて頂けるような雰囲気作りを心がけています。地域の方々との関わりを多く持ち、安全で安心した『生活』を提供しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年1月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

野球場・古民家や桜の名所等が集まる十三塚公園に隣接し、散歩・花見等、公園の環境を生かせる環境にある。「ゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」の理念を受けたユニット目標を職員の話し合いで作成し、実践に繋げている。目標達成計画に「ユニット毎の行事や活動の充実」を掲げ、生活に変化と楽しみを増やしている。ケアプランは毎月ユニット毎にモニタリングし、家族にも諮って、より良いケアとなるよう検討している。ホームは各種施設が集中している特徴を活かして、地域や行政との密接な関係作り・職員のスキルアップ・安全対策の充実に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 名取市グループホームこもれびの家)「ユニット名 あやめ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に話し合った目標を廊下等目にしやすい所に掲げ確認している。 日々振り返り目標に向けて確認しながら実践に向けて努力している。	ユニット毎に職員が集まって法人理念とユニット目標を振り返り、翌年の目標を決めている。理念は業務日誌に、ユニット目標は玄関等に貼り出している。今年は全ユニットで『笑顔』の言葉を目標に入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方々の協力をうけ、お話会や民謡の会等を行い地域の方々とふれあいを多く持っている。又近くの農家の方に作物の収穫をさせて頂き、楽しく交流が出来る。	法人の経営する保育園の園児達、紙芝居と手作り玩具や民謡のボランティア訪問がある。隣接の農家からは畑に入り野菜を収穫する了解を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御利用者様の様子やかかわり方等から得た学びを伝える機会として運営推進会議を生かし地域に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	さまざまな意見を頂いており、ひとつひとつに対応し意見を反映している。ユニット毎に工夫を行い活かしている。	市の担当課と地域包括の職員・民生委員・各ユニットの家族代表・法人の第三者委員がメンバーである。地域行事の情報やヒヤリハットも話題に上り、避難方法・避難路改修等の意見を反映させた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のほか、年間行事(敬老会・忘年会)に参加して頂き、日頃の取り組みをお伝えし協力を頂いている。	市への書類提出は、詳しい報告と情報収集も兼ねて、出向くようにしている。ホームが行う敬老会と忘年会には、市の担当課にも出席を得て、ホームでの生活ぶりを見てもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議を利用し、身体拘束について勉強会を開催し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所は身体拘束をしないケアのため、スピーチロック・ネグレクト防止を軸とした勉強会を行っている。月2回のスタッフ会議や月例のケアプラン検討会でも、入居者の立場に立って身体拘束防止を考えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士で小さなことでも気づいたことは記録に残し、防止に努めている。 定期的に勉強会を開き知識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて活用出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時入所時等に十分な説明を行い理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを大切に、面談時意見を言いやすい関係づくりに努めている。意見を日頃のケアに反映して結果もお伝えしている。	玄関に意見箱を置き、毎月のケアプラン説明や来訪時に家族意見を聞いている。入居者が入院時に体験したりハビリ体操をホームでも試みたら好評なので、ユニットの入居者全員で行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時現場に入り、意見が言える環境にある。また、スタッフ会・ケアプラン検討会等で意見を出し合っている。	各ユニット共、月2回のスタッフ会議とケアプラン検討会を毎月行っている。それには管理者とユニット長が入っており、職員の望む処遇改善など話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の状況を把握し、整った環境や就業規則を意識しフォローしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修があり、外部研修には職員全員が機会を頂き参加している。研修内容を回覧することで個々の向上心も高まり実践に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内外研修を通じて参加の方々と交流を深め、意見交換・情報交換を行っている。また、勉強会でも意見交換したこと等学びを生かし実践に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に細やかな面接を行いご家族様より情報を提供して頂くことや、全スタッフ信頼関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の言葉に耳を傾け共感の姿勢を持ち安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所面接の際に細やかな情報を多く頂く事で支援の検討をしています。 御本人様のペースで不安なく過ごせるよう支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩としてご利用者様を敬い、出来ることを一緒に行い支援している。 親しみのある関係作りと共に、目上の方として関わらせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かな事でもご家族様と密に連絡を取り合いコミュニケーションを大切にしている。ご家族様の声も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた方と御本人様が心おきなく楽しんで過ごせるように場所の提供など環境づくりに心掛けている。	親戚・友人等の来訪時には、居室等で寛いでもらっている。実家があった閑上へのドライブや馴染みの医院や美容院等に行きたいと希望があれば、家族にも誘いかけして出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の興味を把握し、御利用者様同士共有出来ることを一緒にやって頂く事で楽しく安心できる雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談などに対応させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り御本人様の意向に沿えるよう入所前の調査を大事にし、詳しく聞かせて頂いている。御本人様の状態に応じケアプラン検討会や都度検討し、支援に努めている。	入居前調査や1対1となる時を捉え、それぞれの思いや意向を掴むよう努めている。話し合う中で、編み物に興味を示したので誘い掛けし、編み物で過ごす時間が増えた方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様から教えて頂いた情報などを把握した上でご本人様とのコミュニケーションを図り安心したサービスが出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御利用者様のその日の体調を観察し御本人様のペースに合わせて安心して過ごして頂けるようスタッフの連携を密にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良いケアが出来るように日々職員で話し合うようにしている。 月に一度ケアプランの検討会を行いより話を密にしている。	毎月、ユニット毎に担当職員が集まり、ケアプラン検討会を行っている。家族の要望や医療との関わり等で見直す必要が生じた場合は、家族や医療機関等との連携を図りつつ行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記録することで職員が共有出来るようにしている。 申し送りが抜ける事がないようにノートに記録して活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の健康状態に応じ家内歩行・TV体操・リハビリ体操等々出来る範囲で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共の会館に足を運んだり、隣の畑の方との交流がある。近くの商店へ買い物に出掛けたり、コーヒーショップでお茶を楽しむなどの支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医療機関を受診し御家族様の協力のもと、情報を共有し適切な医療をうけることが出来ている。	約1/3が往診を行う医療機関をかかりつけ医としている。通院での受診は、家族の付き添いとしている。通院に際してホームは、痛み部位を図示した情報提供表を作るなどして状態を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回定期訪問を受け細かな状態報告を行っている。状態変化があった際は連絡を密にとり相談を行い、指示や訪問をしてを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の担当相談員等とこまめに連絡を合わせ、状況を把握している。また、病院に訪問し、Dr・Nsから情報を頂くことで状態の把握をし、退院がスムーズに出来、退院後安定した生活が送れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ御家族様の希望にそえるよう配慮している。 訪看やDrと連携を図り実現に近づけるよう職員で取り組んでいる。	入居契約を行う際、「重度化対応・終末期ケア対応指針」を示してホーム方針を説明している。ホームで亡くなった方は体調急変によるものであるが、看取り希望が出ることも想定し、看取りを体験した職員を講師に、勉強会を行うように考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会を受ける等急変時の対応について勉強し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い避難場所・避難器具等の使用方法を確認し職員に周知している。 近隣の方と合同訓練も実施しており、災害に備えている。	年3回の避難訓練を計画し、夜間想定は消防署立ち合いで行っている。名取地区にある同法人の総合防災訓練には、地域の防災関係組織からも参加を得て、避難誘導等を担ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「病気を抱えた方」を理解するという視点を大切にし、『人』としてプライバシーを守るよう努めている。 全体会にて認知症、接遇の勉強会を開きケアに役立てている。	名前呼びだが、間違え易い方は姓呼びとしている。居室やトイレに出入りする場合は必ずノックしている。身体拘束とならない言葉使いを身に付けるため、接遇の講習会を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様の意思を尊重し、自己決定が出来る声かけを心掛け実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュールは決まっているが、その人らしい生活を大切に思い、実践できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	長年の暮らしの中での習慣や好みを理解してその人らしさが失わないよう衣類の選択・整髪のお手伝いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々楽しみの持てる食事が出来るよう心がけている。 御利用者様と一緒にコミュニケーションを図りながら、食事準備や片付けを行っている。	誕生日には本人希望に応えた献立、入居者と職員が一緒におやつを作るなど、食に変化と楽しみを作り出すよう工夫している。ホーム隣の畑作農家からの申し出で、畑に入っの野菜収穫も楽しんで行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気や体調に合わせて食事管理を行っている。 バランスのよい食事が出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に御利用者一人一人に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排尿・排便パターンを把握し、トイレへ行く声がけを行い誘導を行っている。	入居後3日間の排泄パターンを観察して排泄パターン表を作って共用し、失敗のない様努めている。夜間帯は個々の状態にそった対応を皆で話し合い、下着・センサーマット・ポータブルトイレ等の使用を決めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ・ヨーグルト・オリーブオイル等を常時細目に提供し、十分な水分摂取をして頂いている。また家内歩行・体操等を行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間入浴は安全確保が難しいため行っていないが、体調等を確認し出来るだけ希望に沿った支援が出来るよう努めている。	個々の希望に添う入浴に努めており、拒否された場合は時間や曜日をずらす、誘う職員を替える等の工夫を行っている。季節湯として菖蒲湯・柚子湯を行っている。お湯は一人づつ入れ変えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温・明るさ・心地よい寝具等安眠できる環境づくりが出来るようその都度職員で話し合っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について理解し、かつ数人で何重にもチェックをして誤薬予防を行っている。服薬しやすい工夫を行ったり、状態の変化によりDrに報告を行い指示を頂く対応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御利用者様一人一人の好きな事・出来る事を見極め負担にならないよう気を付けながら役割・お手伝いをお願いしている。時には外出し散歩・カフェでお茶を楽しまれたり気分転換が出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日ではないがお天気の良い日は戸外を散歩したりカフェに出掛けたりしている。また御家族様の都合の良い日に温泉等に外泊され楽しまれている。	十三塚公園にホームが隣接し、公園散歩に出掛ける。ボランティア訪問の時は各棟から集まって交流の場としている。全棟回廊式の建物で、歩行運動や日が射し込む所に移動し寛いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には職員がご利用者様に現金を手渡し、支払い等行って頂いている。お金の管理はご利用者様、ご家族様に了解を頂いて、管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望時、対応している。個人的に携帯電話で御家族様と連絡を取り合っている御利用者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側の居間に気温等に気を配り、冬は敷カーペットやひざ掛けを利用し足を延ばして寛げるスペースを用意し自由に日向ぼっこをして頂いている。廊下や食堂には季節に合った装飾をして御利用者様に季節を感じて頂いている。	食卓・ソファ・和式の小上がりがあり、様々の寛ぎ方が出来る共有空間である。行事を楽しむスナップ写真や貼り絵等が壁に飾られている。小上りは、編み物・読書・テレビ鑑賞など趣味を楽しむ場所に使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に長椅子・テレビ・本等置いている。気の合った方々で談笑したり、本を読んだり、休まれたり個々にのんびりできるような環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自宅で使用していた馴染みの家具を持ち込んで頂き、安心して過ごせる空間づくりに努めている。	収納家具や電気器具はそれぞれ好みの物を持ち込み、壁や戸棚には家族等の写真や絵画等が飾られ、個性を作り出している。掃除は残存能力相応に職員と分担して行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者様が自立し生活がしやすい、かつ転倒予防に注意を図り、日々配置換え等を職員で話し合いより良いものにしていく。安全で安心した環境づくりを工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470700204		
法人名	社会福祉法人 宮城福祉会		
事業所名	名取市グループホームこもれびの家	ユニット名	すみれ
所在地	宮城県名取市手倉田字山212		
自己評価作成日	平成28年12月22日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すみれユニットは2階にあるユニットの為、災害時の避難誘導の関係で身体的にお元氣な方が入居されています。ご自分で出来る事はやって頂き、また、掃除や食事作り等の家事も一緒に行う事で生活の主体者として過ごして頂けるよう支援しています。隣の畑の方との交流もあり、旬の野菜の収穫をさせて頂いています。採れたての野菜を使い手作りの漬物、しそ巻きそ等をご利用様と楽しく調理する事もあります。その他、余暇活動にも力を入れ、ドライブや外食、散歩等で外に出る機会も多く作るようにしています。一人一人に合った役割や活動、支援を行いながら笑顔で楽しく、安心して生活出来るように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

野球場・古民家や桜の名所等が集まる十三塚公園に隣接し、散歩・花見等、公園の環境を生かせる環境にある。「ゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」の理念を受けたユニット目標を職員の話し合いで作成し、実践に繋げている。目標達成計画に「ユニット毎の行事や活動の充実」を掲げ、生活に変化と楽しみを増やしている。ケアプランは毎月ユニット毎にモニタリングし、家族にも諮って、より良いケアとなるよう検討している。ホームは各種施設が集中している特徴を活かして、地域や行政との密接な関係作り・職員のスキルアップ・安全対策の充実に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 名取市グループホーム こもれびの家)「ユニット名 すみれ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入り口の目につく場所にユニットで考えた目標を掲げ、意識向上に努めている。	ユニット毎に職員が集まって法人理念とユニット目標を振り返り、翌年の目標を決めている。理念は業務日誌に、ユニット目標は玄関等に貼り出している。今年は全ユニットで『笑顔』の言葉を目標に入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方による、お茶会、お話し会等に参加している。また、隣の畑の方の了承を得て野菜の収穫をさせて頂いている。	法人の経営する保育園の園児達、紙芝居と手作り玩具や民謡のボランティア訪問がある。隣接の農家からは畑に入り野菜を収穫する了解を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で勉強会を行ったり、ご家族様との面談で都度お伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に所長、管理者、副主任、各ユニットのホーム長が参加し、ご利用者様の日々の様子や取り組みについて報告している。また安全管理として避難経路、避難用具等を確認頂き、意見を伺いながらサービス向上に努めている。	市の担当課と地域包括の職員・民生委員・各ユニットの家族代表・法人の第三者委員がメンバーである。地域行事の情報やヒヤリハットも話題に上り、避難方法・避難路改修等の意見を反映させた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の介護長寿課の職員の方、地域包括の方に出席いただき、ご利用者様の日常のことから取り組みなどを報告している。事故に関わることの報告に対し、助言を頂くなど協力を頂いている。	市への書類提出は、詳しい報告と情報収集も兼ねて、出向くようにしている。ホームが行う敬老会と忘年会には、市の担当課にも出席を得て、ホームでの生活ぶりを見てもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、身体拘束についての知識を深め不必要な身体拘束を行わないケアを実施している。	事業所は身体拘束をしないケアのため、スピーチロック・ネグレクト防止を軸とした勉強会を行っている。月2回のスタッフ会議や月例のケアプラン検討会でも、入居者の立場に立って身体拘束防止を考えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一丸となり虐待に対する意識を高め、傷や内出血を発見した際は医務日誌に記録している。また、勉強会を開催し知識の習得に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もいるので、勉強会等で理解できるよう努めている。また、後見人の方とも関わりを密にし、支援に役立てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には十分な説明を行い、質問等にも答え納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。また面談時に要望を伺い、スタッフ会議、ケアプラン検討会時にも報告し、見直しをかけ、反映するよう努めている。事柄により、運営推進会議で報告している。	玄関に意見箱を置き、毎月のケアプラン説明や来訪時に家族意見を聞いている。入居者が入院時に体験したりハビリ体操をホームでも試みたら好評なので、ユニットの入居者全員で行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は現場に入り仕事をしているので意見を言える環境になっている。また、その意見を反映するよう努めている。	各ユニット共、月2回のスタッフ会議とケアプラン検討会を毎月行っている。それには管理者とユニット長が入っており、職員の望む処遇改善など話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がイキイキ、やりがいを感じられるような環境を整え声掛けし働きやすい職場になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回の事業所内の研修会があり、また法人内外の研修にも参加させて頂き、情報を共有し技術や知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等の参加で同業者と交流をし意見交換や情報収集できる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一日でも早く信頼関係ができるよう三日間の行動記録をつけ、必要なケアを見極め安心できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に要望や不安などを伺い安心出来る様に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	2名で実態調査を行い、必要な支援を引き出し適切なケアを考えている。必要に応じ、他機関との連携を交えたサービスの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様が役割を持ち、共に活動を楽しみながら生活の主体者となるよう、都度支えながら感謝の気持ちを伝え支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と連絡を細目にとり、一緒に考えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の継続や親戚ご友人の面会時にはゆっくりと過ごして頂き、関係が途絶えることのないよう努めている。	親戚・友人等の来訪時には、居室等で寛いでもらっている。実家があった閑上へのドライブや馴染みの医院や美容院等に行きたいと希望があれば、家族にも誘いかけして出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が仲良くなれるよう橋渡しをし、家族のような温かい雰囲気になれるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてもいつでも来られるような環境を作り、相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の実態調査で必要な支援を見つけられるよう努めている。また日々の関わりの中で把握出来る様に心掛けている。	入居前調査や1対1となる時を捉え、それぞれの思いや意向を掴むよう努めている。話し合う中で、編み物に興味を示したので誘い掛けし、編み物で過ごす時間が増えた方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時に確認しているが、ご本人様やご家族様に確認をさせて頂き、より良いサービスにつながるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々記録を書き留め、職員間で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、スタッフのみのケアプラン検討会を開きモニタリングを行い、ケアプランに作成している。ご家族様面談にて要望を聞き、プランに反映させている。	毎月、ユニット毎に担当職員が集まり、ケアプラン検討会を行っている。家族の要望や医療との関わり等で見直す必要が生じた場合は、家族や医療機関等との連携を図りつつ行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に状態を記録し職員間で情報の共有をする事により統一したケアを行っている。また、介護計画の見直しの際にも活かし繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況やニーズを把握し意向に沿えるよう対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加をしたり、地域にあるスーパーや病院に出掛け地域の一人として生活が営めるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される病院をかかりつけ医とし、必要に応じて往診に切り替え、適切な医療を受けられるように努めている。	約1/3が往診を行う医療機関をかかりつけ医としている。通院での受診は、家族の付き添いとしている。通院に際してホームは、痛み部位を図示した情報提供表を作るなどして状態を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用し相談している。また変化が見られた時はその都度、連絡・相談し指示や訪問をして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院担当者と連絡を取り合い状況の把握に努めている。また、入院先に訪問し、医師・看護師より状態の確認を行い、退院に向けてと退院後の生活がスムーズに出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の意向をお聞きしながら施設の環境面で対応出来る事をお伝えし、ご利用者様のより良い支援を考えていけるように相談助言を行っている。	入居契約を行う際、「重度化対応・終末期ケア対応指針」を示してホーム方針を説明している。ホームで亡くなった方は体調急変によるものであるが、看取り希望が出ることも想定し、看取りを体験した職員を講師に、勉強会を行うように考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会を受講している。また「急変時の対応」についてのマニュアルを職員の目につく場所に掲示し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な日中、夜間と設定を替え避難訓練を行っている。図上訓練、消火器の場所の確認、担架の使用について全職員が出来るように取り組んでいる。	年3回の避難訓練を計画し、夜間想定は消防署立ち合いで行っている。名取地区にある同法人の総合防災訓練には、地域の防災関係組織からも参加を得て、避難誘導等を担ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方という事を念頭に置き敬意を持ち接している。特に排泄面では配慮をし声掛けを行っている。認知症ケア、接遇についても勉強会を実施し、ケアに役立てている。	名前呼びだが、間違え易い方は姓呼びとしている。居室やトイレに出入りする場合は必ずノックしている。身体拘束とならない言葉使いを身に付けるため、接遇の講習会を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を用意し自己決定して頂けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご本人様の体調、ペースや希望に沿いながら過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中では好みの服を選んで頂き、行事の時にはお化粧の支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望の食事や季節の食材を取り入れ、調理の準備を手伝って頂き、食に対する意欲を持って頂く。また一緒に片づけをし、食に対する感謝の気持ちも感じて頂けるように努めている。	誕生日には本人希望に応えた献立、入居者と職員と一緒におやつを作るなど、食に変化と楽しみを作り出すよう工夫している。ホーム隣の畑作農家からの申し出で、畑に入っの野菜収穫も楽しんで行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に応じて食形態を変えたり、苦手な物や禁忌な物は代替品を提供している。摂取量が不足している場合はチェック表に記入して把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立されている方は声掛けし、その後確認している。ご自分で行えない方は職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合ったトイレ誘導を行っている。また失敗を軽減できるようにそれぞれに合ったパットを使用している。	入居後3日間の排泄パターンを観察して排泄パターン表を作って共用し、失敗のない様努めている。夜間帯は個々の状態にそった対応を皆で話し合い、下着・センサーマット・ポータブルトイレ等の使用を決めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェック表を記入して有無を確認している。おやつにヨーグルトを提供し水分も摂り、運動や腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2~3日に1回入浴支援を行っている。ご利用者様ひ声がけし、納得されてから支援している。季節により菖蒲湯やゆず湯も取り入れ楽しんで頂けるように行っている。	個々の希望に添う入浴に努めており、拒否された場合は時間や曜日をずらす、誘う職員を替える等の工夫を行っている。季節湯として菖蒲湯・柚子湯を行っている。お湯は一人づつ入れ変えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動を促し、夜間安眠に繋がるように支援している。必要に応じて臥床を促している。また安眠できる様に環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し目の届く所に掲示する事で理解し確認している。必要に応じて医務記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を見極めて、掃除、茶碗洗いと拭き方、もやしの芽取り、食事の下準備等の役割を持ち生活して頂いている。また、興味の持てるパズル、塗り絵、貼り絵、ゲーム等の余暇活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天気に合わせて公園へ散歩に出かけている。地域に買い物やコーヒーを飲みにも外出している。他ユニットとの合同ドライブや行事に参加して頂いている。ご家族様にご協力を頂き、外泊や外出、外食をされる事もある。	十三塚公園にホームが隣接し、公園散歩に出掛ける。ボランティア訪問の時は各棟から集まって交流の場としている。全棟回廊式の建物で、歩行運動や日が射し込む所に移動し寛いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分の能力に合わせて管理して頂いている。管理が難しい方は希望に応じて担当者が管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末には年賀状を書いて頂くように支援している。連絡をしてほしいとの希望がある時は職員が家族様に要件を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい環境を整えながら、随所に季節を感じられる装飾を一緒に手作りしている。行事等の楽しかった場面の写真を飾り、ユニットの一員である事を感じて頂けるようにしている。	食卓・ソファ・和式の小上がりがあり、様々の寛ぎ方が出来る共有空間である。行事を楽しむスナップ写真や貼り絵等が壁に飾られている。小上りは、編み物・読書・テレビ鑑賞など趣味を楽しむ場所に使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に椅子やテーブルを設置し、気の合う方と自由に過ごす事のできる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や家で使っていた物を持って来て頂き、安心できる空間づくりに努めている。家具や装飾品の配置も確認しながら整えている。	収納家具や電気器具はそれぞれ好みの物を持ち込み、壁や戸棚には家族等の写真や絵画等が飾られ、個性を作り出している。掃除は残存能力相応に職員と分担して行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を掲げ、トイレは分かりやすい表示にして安全で自立した生活が送れるように配慮している。		